

木村幸弘の県政報告

ゆきひろ

発
行
者

2011 年 新春号

岩手県議会議員・木村 幸弘
連絡先 木村幸弘事務所
〒020 -0091 花巻市西大通り1-10-50
Tel (Fax) 0198-24-3445



2011 年年頭にあたり ご挨拶申し上げます

岩手県議会議員

木村 幸弘

皆様におかれましては、いまの厳しい社会情勢から、安心感のもてる社会へと転換が図られることを願って、新年をお迎えしたと思います。

しかし、国政(民主)政権の混迷ぶりは目を覆うばかりの有様で、その不信は強まるばかりです。岩手県政も国政同様の偏った勢力に支配され、馴れ合いと惰性による緊張感に欠けた運営に陥っており、議論も質疑も不十分なまま数の力によって、県当局の提案が押し通されています。

私は、県民の暮らしのありのままの姿と向き合い、信頼の構築に努め、人と社会の道徳や、いのちを尊重した県政運営を目指すことが大切だと思います。

地方は二元代表性(首長と議会の公選制)であり、与党も野党もない対等な関係のもとで、論議を深め課題を明確にし、政策を充実することが求められます。

私たちは、そのために、岩手の多様な県政課題に対して、しっかりと論じあうことができる第三の勢力として、わかりやすい、公正な政治を実現するためにその職責を果たしてまいりたいと思います。

本年も引き続き皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

県政と議会活動を振り返って

◇ 問われるリーダーシップ！

達増県政は「危機を希望に」というスローガンのもと都市と地方の格差問題、県民所得向上や雇用対策、医療・福祉施策の充実。グローバル化の進展に対応した内需主導への転換などについて「希望王国岩手」のマニフェストに基づく取り組みと、「草の根」と表する地域主権の推進を掲げてきましたが、果たせるかな県勢がその方針通り進んでいるとは言えず、個別政策についても、果敢に挑む姿勢も感じられぬまま推移してきました。

したがってその評価についても、その成果を議会の質問や記者会見で問われたとき「希望創造プラン」「県民計画」の策定や「医療の県民運動を開催できた」こと等を挙げ、明確な実績を自ら示すにいたりませんでした。

まさに自身の行政の統治能力や指導力、政策の発信力の希薄さを露呈したものと指摘せざるを得ません。

◇ 象徴的な県立病院の無床化問題

医療現場の勤務医の苛酷な勤務環境によって医師が退職し医師不足が拡大する危機を、あたかも過疎地域等の医師派遣や入院施設での負担が主因であるかのようにして、該当地域の医療事情や県民の立場ではなく医療界の事情を前面に打ち出し、さらに一方的で拙速な手続きを強行しようとした結果、県民世論や議会の反発を招くこととなりました。

◇ 議会の意思を否定

また、議会の最終判断となる本予算審議を無視するかのように、補正予算で無床化を前提とした、患者を他の入院施設に送迎するバス購入予算を忍ばせるなど、安易な政策判断が厳しく追及されました。また、私たちが

対抗手段として提案した補正予算の修正案をめぐっては議会の意思をも否定する「再議決」の手続きを強行、審議を混乱させるなど、到底民主的県政運営とはいえない事態を招きました。

高校の授業料無償化は！

高校授業料の無償化実施については、その対象となる学生の選別は地方の裁量に委ねられ、本県では条例制定を本法の規定どおりとし、法の趣旨である「社会的に学ぶ機会を支える」との政治的判断が何ら考慮されずに、無償の対象から外れる学生を全国に先駆けて選別したのです。

◇ 政策の徹底論議を

私は、6月議会で、この見直しを求めましたが、知事は国の制度設計の問題だとして、3年後の制度見直し時期に必要なあれば検討すればよいと言及するなど問題意識の希薄さと地方の自主裁量権と政策判断が検討されていない姿勢が浮き彫りになりました。

一方、議会においては、こうした政策課題について疑問や問題点があっても消極的で、逆に追求に対しての批判、執行部擁護に走るなど、民主会派の対応は議会制民主主義を形骸化する古い体質そのものです。

私は、あらためて議会が果たすべき役割の重要性を踏まえ、政策の徹底した論議を行い、県民への説明責任を果たしていかなければならないと強く感じています。



・・・・・・・・・・・・・・・・皆さんのご意見をお寄せください・・・・・・・・・・・・・・・・

各地区での県政報告会

私は、昨年の6月議会、12月議会が閉会されてから花巻市内17ヶ所で県政報告会を開催してきました。

この報告会で、およそ310名の市民の皆さんが出席し私の報告に耳を傾けてくださいました。また、報告後は出席された皆さんから、質問や多くのご意見、提言をいただきました。

私は、これらのご意見や提言は、県民としての切実な声として真摯に受けとめ今後の活動に生かしてまいりたいと思います。

寄せられた質問・意見・声（抜粋）

- ◇ 県立病院跡地利用について、市街地の観光資源を活用した、街中拠点として活かして欲しい
- ◇ 医師不足解消に向けた対策はどうなっているか
- ◇ 中部病院に検査入院したときに、高額ベッドに入院することとなり、負担が大きき何とかして欲しい
- ◇ 空港旧ターミナルビルの活用策として「道と空の駅」的な施設として考えてはどうか
- ◇ 花巻市内の医療機関の機能充実が必要ではないか、救急医療体制を整える必要がある
- ◇ 大迫診療所の入院機能を復活して欲しい
- ◇ 当面は診療所施設の有効活用はやむを得ないが、現診療所機能は絶対守っていただきたい
- ◇ 夜間・休日に町内に医者がいないという不安な状況を考えて欲しい
- ◇ 中高年者の再就職問題は深刻だ、引きこもりや生活保護に発展している
- ◇ 生活保護適用にも資産の関係で適用にならず生活困窮者の身になって、きめ細かい相談と解決の方策を！

- ◇ 米価下落の影響は大変深刻だ。生産者は再生産意欲を失ってしまう
- ◇ 米価は買い叩かれているのに、小売価格があまり下がっていない。適正価格の実態を調査し、生産者と消費者にツケが回っている実態を明らかにすべきだ
- ◇ 農業法人として冬期間の雇用をどう支えるか。六次産業など通年的な経営を支援する取り組みが必要だ
- ◇ TPPに反対して欲しい。輸出産業重視のメリットが国内の雇用や経済にどれだけ還元されるか不透明だ
- ◇ 世界的に環境変動による食糧や水の危機が言われている。食糧確保には一次産業を守り自給率を引き上げることが重要だ
- ◇ 高齢者のための健康増進施設の整備を考えて欲しい。ゲートボールやグランドゴルフなどの大会が開催できる環境を検討すべきだ
- ◇ 国体会場の整備の考え方は、クレール射撃場も老朽化している
- ◇ 高齢者の免許返上もあり、バス交通対策の充実が必要だ
- ◇ 知事の公用車問題は全くナンセンスであり同感だ！



〔議員の報告に聞き入る〕

木村幸弘の初春に思う

花巻の街・観光を元気にしたい

◇ 過日、県政調査会で(株)JTB常務の清水慎一氏を招き「岩手の観光戦略の課題と展望」と題する講演会を拝聴した。

清水先生から、今日の観光客の動向とニーズの特徴、それに対する岩手の現状と課題について、率直な話を聞いた。その内容は花巻市にとつて多くの示唆を与える内容であり、思わずペンをとりました。

◆ 観光客の動向とニーズ

① 団体客が減少し、個人・小グループ化しており、温泉中心の団体客型は苦戦

② 観光バスやマイカーだけの周遊型から「街歩き」「里歩き」に時間をかけた、歴史・文化、食を楽しむ滞在型、体験・交流型に変化。

◆ 岩手の観光の現状と課題

① 宿泊してじっくり滞在を楽しむ「まちづくり」が無い。

② 岩手の魅力を滞在して楽しめるプログラムが無い。

③ プログラムやまちづくりを支える住民や団体の連携が足りない

◆ 観光戦略の目標達成のために「歩いて楽しむ街づくり」が重要

① 商店街の元気がないため、車を降りて歩く街めぐりを生み出している。全宿泊施設の食材はすべて地産地消。

* 湯布院の例・まち歩きが商店街に活力を与え、宿泊は連泊効果を生み出している。全宿泊施設の食材はすべて地産地消。

花巻はどうか？街歩きの魅力がない。宿泊単価で湯布院と花巻では、一万円近い開きがある。滞在魅力がなければ連泊もしないし、リピーターもない。

* 十和田湖の例・周遊型の典型、観光バス・マイカー通過。

アンケートでつまらないとの評価。奥入瀬溪流は「歩く」にすべき

* 石見銀山は現地で車両通行禁止として、途中の集落では観光客を迎え入れにより、年収一〇億を超える商店も。

② 観光地域づくりプラットフォームの仕組みを作るべき。

観光客の問い合わせに対する、案内、手配までワンストップサービスを展開すること。

③ 行政と観光業者主体から商工団体や農業団体、市民の連携が「街中観光」を生み出す力となっているところは成功している。「観光施設や箱物」「自然・景観」「温泉」だけでは、人は呼ばなくなった。

④ 二次交通機関として公共交通の活用は行政が支援を。

新幹線、空港を降りてからの二次公共交通機関に岩手の課題が多い。

以上の講演の問題提起を簡単にまとめてみました。花巻に当てはまる点が相当あり、新たに動き出した「まちづくり検討会議」で、これらの課題を踏まえて、街中観光と地域活性化策を思い切った取り組みで欲しい。マルカン食堂で割り箸ソフトを食べながら、清水先生を招いて、皆でおいおいがやがや話し合ってみたら？おもしろい元気なまちづくりのアイデアが湧き出てくる気がします。